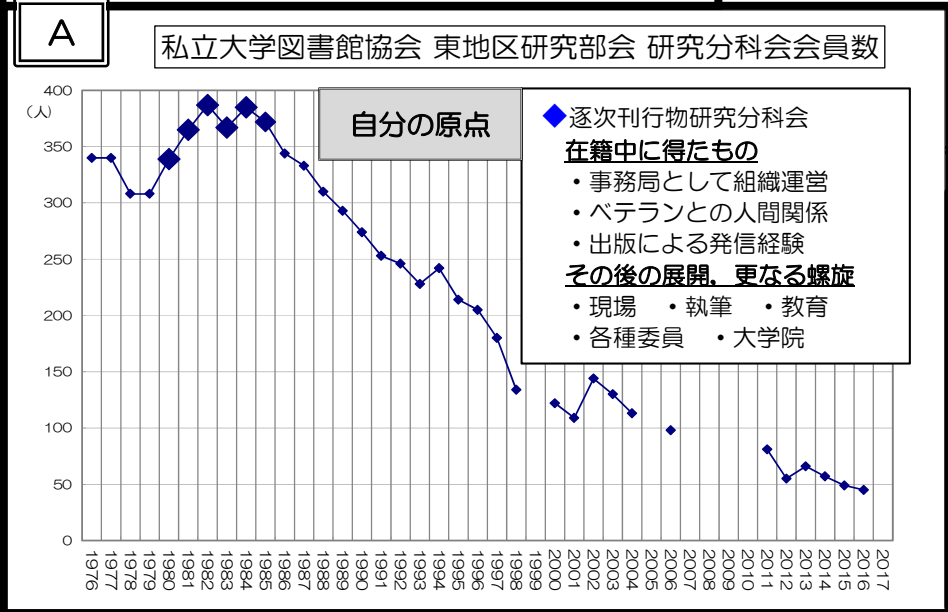


C 10年間 2階部分：図書館員（図書館活用：運営からサービス、情報技術、効率化、繋がり）
 棲み続ける 1階部分：社会人（常識、約束：図書館目線から設置者目線へ）
 家に例えると 基礎部分：人間（思いやり：職場目線からユーザー目線へ）

図書館笑顔プロジェクト
 長谷川豊祐
<http://toyohiro.org/>

西暦	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
元号	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
年齢	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
在職	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
勤務	鶴見大学																																					新館																																					事務長																																					勤務																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
勤務	逐刊																																					事務局																																					私大図協/常任																																					神図協/大学																																					勤務																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
個人	執筆																																					国際標準化委員																																					JLA編集委員																																					研修																																					出版委員																																					委員長																																					発信																																																																																																																																																																																																																														
個人	在職中のライフ・イベント																																					大図研																																					事務局																																					支部長																																					ワープロ																																					PC																																					貢献																																																																																																																																																																																																																														
個人	今後のライフ・プラン																																					茅ヶ崎方式(英語)																																					Webサイト運営																																					司書講習講師																																					JMLA出版																																					DL研究会講師																																					貢献																																																																																																																																																																																																																														
個人	1982年 387人は、2016年 45人まで 1/8に縮小し、研修の成果として、規模のメリットが消えた。縮小の原因は、																																					大学院																																					ゼミ																																					mixi																																					Facebook																																					発信																																																																																																																																																																																																																																																																			
個人	・他部署間異動で経験年数の短縮																																					1999：医学情報サービス研究大会																																					2004：大図研全国大会																																					F市図書館協議会委員																																					図書館笑顔Prj																																					発信																																																																																																																																																																																																																																																																			
個人	・専任職員の割合の減少																																					非常勤講師																																																																																																																																																																																									教育																																																																																																																																																																																																																														
個人	・業務機械化による人員の縮小																																																																																																																																																																																																																																																																																																								教育																																																																																																																																																				
個人	・業務範囲拡大の多忙化																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		貢献																																																																										
個人	学び方の工夫が必要。何をどの様に？																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												貢献



継続中の7分科会は図書館固有の狭いテーマ。
 分類(1955-)4人、パブリック・サービス(閲覧参考 1955-) 3人、レファレンス(閲覧参考 1955-)3人、企画広報(1986-)4人、西洋古版本(1985-)8人、和漢古典籍(書誌学 1955-、2000-) 6人、研修(2009-) 21人
休会・廃会16分科会はテクニカル業務と図書館を越境する領域。
 逐次刊行物(1955-2011)、書誌学(1955-1999,2000-和漢古典籍)、資料組織(目録 1955-、1980-2007)、理工学(195x-2011)、図書館史(195x-1970)、図書館運営戦略(事務能率 195x-、2000-2009)、書誌作成(1970-、文献探索-2001)、音楽資料(1971-1983)、相互協力(1980-2007)、視聴覚資料(1982-1997)、北海道地区(大学図書館業務1985-、2004-)、東アジア資料(1994-1999,2000-和漢古典籍)、文献探索(1996-2001)、メタデータ(2002-2007)、情報リテラシー教育(2002-2011)、L-ラーニング学習支援(2004-2013)4